

# 挑戦を楽しむ心、未来を信じる力

## 中野友美さんが目指す町づくりとその思い

町内のコミュニティ・カフェにふわりと彼女が現れると、店内の空気が一気に華やいだ雰囲気になりました。彼女の名前は中野友美さん。箕輪町議会議員として1期目、町内のイベントには必ずと言っていいほど姿を見せ、多くの人が集まる中でもひとときわ輝くオーラを放っています。箕輪町の魅力を再発見しながら、公私ともに自分らしい歩み続ける中野さんが、どのような想いで自らの人生と向き合い未来を描いているのか、その歩みをじっくりと伺いました。

### 「勉強からの解放」から「学ぶ楽しさ」への目覚め

Q: 経歴をお願いします。

私はここ箕輪町で生まれ育ちました。地元のを学校を卒業後、大手メーカーに就職しました。学生時代に打ち込んでいたテニスを続けたいという思いが強く、テニスコートがある企業というのが選択の理由なんです。『もう勉強しなくてもいいんだ』という開放感でいっぱいでした。

この職場で夫と出会って、25年間にわたるキャリアを築くことになるとは、当時は思っていませんでした。

勉強はもう嫌だと思って飛び込んだ社会ですが、仕事や暮らしを通じて、自ら学ぶことの楽しさに目覚めました。興味を持ったことは実際に体験して資格を取得していきました。例えば、祖母の在宅介護をきっかけに介護資格を取得したり、自分や家族の不調を機にセラピストとしての学びを深めたり。また、好きだったモノづくりやデザインを形にするため、陶器の絵付けインストラクターなどの資格も取得したのです。そこに共通性はまったくありません。知りたいことがあると、とことんやりたい好奇心が、仕事だけでなくプライベートをも充実させてくれました。



## 人生の大きな転換 中村文昭氏との出会いと家族への想い

会社員・家事・子育てで多忙な日々の中で、私は自分の「ココロ」を失いかけていました。そんな頃、講演家の中村文昭氏との出会いが、私の生き方を大きく変えることになったのです。

「楽しいはずの子育てを、楽しめていなかった」

「こだわってきた価値はくだらない見栄だ」

という事実にはッと気づかされたのです。家族との時間をもっと大切にしたい、「おかえり」と、家族を自宅で迎えられる暮らしがしたいという思いが自分の中で抑えられなくなりました。

長男は高校生になっていましたが『今ならまだ間に合う』と、選択定年という制度を使って25年間勤めた会社を思いきって退職しました。それは自分自身の生き方と、家族にもう一度向き合うための大きな勇気のいる一歩でした。

## 社会への恩返しと「町」への関わり

**Q:なぜ町議会議員に立候補しようと思ったのでしょうか。**

退職後に、やっと手にした家族との時間ですが、子育てでお世話になった社会への恩返しのつもりで、子どもを預かる「ファミリーサポート」の講習を受講しました。これを機に保育園で行政と関わり、町が男女共同参画事業として「女性活躍推進コーディネーター」を募集していることを知ったのです。好奇心と、自分の経験を活かせるかも知れないと挑戦。採用となり、町役場での活動が始まりました。内閣府や県からの数値目標や施策に基づいて座談会や講演会の開催、ジェンダー平等の啓発、イクボス・温かボスの企業誘致などに奔走するも充実した日々でした。ですが、この3年間の活動の中で、ある確信が私の中で膨らんでいったのです。

「この分野にだけ携わっていても、町民の暮らしは変わらない。もっと広い視野と多角的な視点でかかわらなくては。」

役場で働いてちょうど3年が経った春に、町議会議員選挙というタイミングが重なりました。

「風通し良く、もっと女性視点で、町民の声が届く町政にしたい」と、思い切って出馬を決意したのです。日常を発信していたSNSで繋がる町の方々や、これまで開催してきたイベントで出会った皆さんの強力な後押しが、私の大きな支えとなりました。



第3次 箕輪町男女共同参画計画冊子

## 議員として歩む「自然体」の町づくり

Q: 実際に議員として活動してどのようなことを感じていますか。

議員になってからの毎日は、学びの連続でした。知らないことを知るのには本当に楽しいのですが、責任の重さに潰れそうになることもあります。

働く母親たちの「リアルな声」である、保育や学校現場といった身近な課題だけでなく、介護分野、健康推進、建設や農業など、町で届ける声を現場で拾う活動は驚くほど多いのです。

Q: 議員になってからの具体的な活動はどのようなことでしょうか。

最初に取り組んだのは「みんなのぎかい」の刷新でした。町民の方たちに議会活動を身近に感じてもらうため、広報委員長に立候補して内容を刷新したのです。新しいことをすると、率直なご意見が届きません。発行のたびに厳しいご指摘をいただくこともありました(笑)。それでも「読みやすくなった」「毎回楽しみにしているよ」という声に支えられています。



Q: 女性活躍について、どのように考えていますか。

「女性活躍」という言葉について、私は明確な持論があるんです。女性が活躍していると言われるのは、本来は誉め言葉ではないのです。性別に関係なく、誰もが自分らしく居られる場所を持つこと。女性が特別扱いされるのではなく、個々の価値観やライフスタイルで居られることが当たり前の社会を目指すべきなのです。そう思うようになったのは、町役場で女性活躍推進に取り組んだ経験からですね。

## 農業と食の安全への関心

**Q: 無農薬のお米作りに挑戦したと聞きました。**

『食べるものを自分で作る暮らしがしたい』という義妹の一言から始まった挑戦なのです。

もともと食の安全や栄養の大切さへの関心があったことから、不耕起栽培の畑3年の後、どうせなら無農薬で、失敗してもいいから米を作ってみたくて。農機具ひとつ持たない仲間3人でスタートしたのです。害虫の発生や、収穫直前の稲の倒伏など失敗の連続でしたね。

でも、たくさんの地域の方々に助けられて、仲間と笑いながら乗り越えることが出来ました。

毎日のように田畑に通う暮らしは最高でしたね。



初挑戦の米「おかげさ米」報告会にて

## 未来へのまなざし



**Q: これからの目標は？**

目標という言葉は苦手ですね。決めると苦しくなるような気がして。今は現場の声を拾って、町政に反映させることが私の役割です。特に同世代や子育て世代の声を届けるため、これからもイベントにはどんどん行きますよ(笑)。大切なのは、子どもたちが見ている大人の姿です。大人になるのが楽しみになるような、そんな生き生きとした大人の背中を見せていきたいです。

あと、学校教育の選択肢を持つために、自主上映で映画鑑賞会、メノポーズ(閉経世代)のための講座開催をしてきたように、必要だと思ったことは即実行していきたいと思います。

## まとめ

どこまでも自分らしく、心のままに歩んできた中野さん。持ち前の冒険心に導かれ、いつしか失敗をも愉しむ、しなやかな心を育みました。「ただやりたいから、動きたいから動いているだけ」と語る彼女の瞳には、常に明るい未来が映っています。

「動けば変わる」と、自分を信じ、何にでも興味を持ってチャレンジするその姿は、「町の人々を巻き込みながら人生を楽しむ大人になる」という希望を与えてくれます。力強くも無理をせず、あくまでも自然体で生活そのものを愉しんでいます。

中野さんにとって、失敗とは「何もしないこと」を指します。

「何かに挑戦して失敗するのは失敗とは言わない。失敗の定義が違うのよ。」と。

『冒険心』と『好奇心』を持ち、そして『予測不能なことを自分らしく愉しむ』という、ひとつの模範となる生き方を体現してくれる中野さん。これからも町の未来を築いていく力強い存在でいて欲しいと願っています。

- ・取材 : 平賀裕子・千田るみ子
- ・構成・執筆 : 千田るみ子
- ・ご協力 : 中野友美さん